

# 平成26年度 指定管理者評価結果

所管課 健康福祉部 障害福祉課

## 1 施設の概要等

施設名	岐阜県立はなの木苑
施設所在地	土岐市泉町久尻字滝ヶ洞1512番2
指定管理者 (共同体構成員)	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日
主な施設	入所室、事務室、会議室、食堂・厨房、浴室、作業棟等

## 2 前年度の評価員会議の主な意見及び対応

前年度の評価員会議の意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動障害に対する専門性を高めていくことが必要である。特に人的な環境を含めて、原因が何かを職員の共有の場でフィードバックしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動障害は二次障害であるため、自分の想いを言葉で表すことができない本人の困り感を理解する事を目的に、職員を自閉症専門研修等の外部研修へ積極的に派遣した。復命研修を実施することにより、行動障害に対する職員全体の理解を深めるように取り組んでいる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発作による転倒と他要因による転倒ではリスク管理が異なると考えられる。総合的なリスクマネジメントを確立する必要があるのではないかと。利用者の状況を把握し、環境を整える。ヘッドギアの装着、移乗の介護技術など初歩的なことにおける申し合わせは重要と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメントについては、既存のリスクマネジメント委員会の活動を強化して毎月の経営会議での報告を充実させ、棟会議を通じて職員全体に周知し更にリスク管理意識を高めた。 障害による転倒などのリスクについては、24年度施行になった「障害者虐待防止法」への対応も含めて、個別支援計画に補装具等発作対応の内容を組み入れて支援を再考し個別に対応した。また、物理的要因については「ヒヤリハット」を有効活用し、破損箇所や危険箇所について速やかに対応するようにした。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経理区分間繰入金支出の水準の適正化について議論が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人本部の指導の下、適正に対処した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の正規化率が事業団の目標より乖離しており、正規化を進める必要があると考えられる。</li> </ul>	

### 3 平成26年度評価結果

評価員会議  
の評価・意見

#### 【 評価結果 】

項目		平均点	評価
1	管理基準の充足状況	3.40	優
2	設置目的の達成状況	3.40	優
3	公共性の確保の状況	3.20	優
4	経営状況	3.40	優
5	その他派生的効果等	3.20	優
総合評価		3.32	優

(評価方法：5名の評価員による1～4点の4段階評価)

(努力が不足している ← 1 2 3 4 → よく努力している)

#### 【 評価についての意見 】

##### ○管理基準の充足状況

- ・口腔ケアの専門家を招くとともに、看護師や栄養士を中心にしながら支援チームを作り、誤嚥性肺炎等による入院者の減少につなげた成果が評価できる。
- ・利用者主体のサービスの実施としてアセスメントやモニタリングを実施するとともに、「職員の基本姿勢カード」による具体的な行動基準を示している。更に、ケース検討会議でチームとしての支援の統一を図っている点が評価できる。
- ・地域の発達障がい児の拠点としての役割を果たすとともに研修機能の役割を果たしている。また、職員に対する研修等により職員全体の行動障がいに対する専門性を高めるよう努めている点が評価できる。
- ・障がいや行動のみに着目するだけでなく、本人のこれまでの生活歴や環境にも留意し、本人が落ち着ける環境を演出することもこれまで以上に必要であるため取組まれたい。

##### ○設置目的の達成状況

- ・施設入所の利用率が高い。また、母親の入院に伴う重い自閉症の方の短期入所の受け入れなど地域の障がい者とその家族のセーフティネットとして機能している。発達障害支援センター等を通して「発達勉強会」「事例検討会」を圏域・市町で開催して発達障がいの啓発に努めている点が評価できる。

##### ○公共性の確保の状況

- ・虐待など権利擁護に対する意識を高めるための4点にまとめた読み合わせ事項、取り組みに対して常に現状を反映させていかなければ意味がないという真摯な姿勢や、再発防止策を各部署会議で検討している点が評価できる。
- ・対応が難しい行動障がいを伴う自閉症の支援について、統一した支援などきめ細かい関わりにより利用者の安定に努めた点が評価できる。
- ・利用者の年齢、障がい等多様化する中で個々の特性に応じた適正支援ができるよう、重点項目ごとに取り組みをしている。また、自治会長、利用者代表、育

	<p>成会長、福祉課職員及び社協職員等により構成される施設経営委員会を定期に開催し施設の理解と意見をいただくなど開かれた施設経営をしている点が評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害を想定した避難・誘導訓練を実施されたい。</li> </ul> <p><u>○経営状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の業務委託やNASシステムを導入して経営の効率化に努めており、経営状況は概ね適正である。</li> <li>・経営会議での検討事項を、システム委員会を通じて各部署で検討していることで、職員が意識していく仕組みとしている点が評価できる。</li> </ul> <p><u>○その他派生的効果等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世話人会議を開催しながらの土岐ふるさと村交流会や、地域の障がい者やボランティアの方との陶器の作品作りが、外出につながっていくということは、生活の広がりという点から評価できる。</li> <li>・東濃圏域発達支援センターとして、勉強会や講演会、個別支援計画を積極的に開催し、圏域の発達障がい支援体制を強化した。また、地域の計画相談や悩み相談にも積極的に取り組んでいることから、地域における障がい福祉の要となっている点が評価できる。</li> <li>・ボランティアの更なる受け入れを図られたい。</li> </ul>
<p>県の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定書に定めるサービス水準を満たし、適切に管理されている。</li> </ul>